

さよし



廿日市市
地域支援員だより

2023
春号



地域支援員とは、地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、佐伯や吉和でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。

年に4回、お届けします。



佐伯高校 魅力化担当

松本 美由紀

私の好きな 佐伯高校！

3月4日、佐伯高校から、令和4年度の3年生が卒業していきました。

私は、彼らの入学とともに、地域支援員の活動を始めました。卒業生として送り出すことは、とても嬉しく、少しさみしい気持ちにもなりました。

この度、私もまた、3年の任期を満了し、佐伯高校魅力化担当の地域支援員活動を終わります。

今回は、3年間、佐伯高校を担当した私が思う「佐伯高校の好きなところ」「魅力的なところ」を、ほんの一部ですが、ご紹介したいと思います。

私は、この仕事を知るまで、佐伯高校のことを知りませんでした。

任用が決まる前、一度だけ、佐伯高校内を見学した際、校門を入ってすぐに出会ったのは生徒たちでした。

体育館から教室へ向かう生徒がなんと全員、通る度に、「こんにちははー！」と元気な挨拶をしてくれ、とても嬉しかったことを思い出します。



この時のとても明るくハツラツとした佐伯高校の第一印象は、任用されてから3年たった今も、変わっていません。

職員室

みなさんにとって、職員室とはどんな場所でしょうか？

私が学生の時は、何も悪いことをしてなくても少し緊張する、できるだけ行きたくない場所でした(笑)

佐伯高校の職員室には、生徒がよく先生を訪ねてきます。

放課後に個人で進路相談に来ていたり、授業の時に理解できなかったところを、先生の席で教えてもらっている子がいたり、「こんなことをやってみたいのだけど」と意見を聞きに来ていたり、さまざまです。

何かあった時、生徒が「先生に相談してみよう」と思えるつてすごくいいなと、思います。信頼関係や、学校内の安心感を表していると思います。

体育祭

佐伯高校の行事の中で、私がもっとも好きな行事は、体育祭かもしれません。

佐伯高校の良さが、たくさん見られる行事だと思っています。

佐伯高校の体育祭では、常に全員が何かをしています。

出番じゃないから、やることがない、という生徒はいません。競技の出番ではない時も、みんな大忙しで楽しそうです。

競技の進行を行う子、応援旗を振る子、アナウンスをする子、次の競技の準備をする子など。

テンポの良い実況中継で体育祭を盛り上げ、才能を爆発させる子は、なぜか毎年現れます！

伝承されているのでしょうか(笑) 部活対抗リレーでは、部活に入っていない生徒も



徒も「帰宅部」として走り、先生も学校事務の方も走るのです！まさに、佐伯高校のキャッチコピー、「全員主役。」が、よくわかる一日です。

挑戦できる環境

この3年間、佐伯高校生の挑戦する姿を、たくさん見ることができました。

その度に、生徒の姿に胸を打たれ、私自身が励まされる思いでした。

アーチェリー部のインターハイ男子団体3位入賞や女子硬式野球部の公式戦初勝利、高校から箏をはじめた箏曲部員の初舞台、軽音楽部の地域イベントのステージといった、部活動の挑戦と活躍。

部活動だけではなく、自分たちのやりたいことを先生や友達、地域に応援されながら活動する生徒も多くいました。

eスポーツで全国大会出場、馬術競技国体出場、国際天文学オリンピックピックに日本代表として出場、絵画で倉敷市長賞受賞、高校生対象お弁当献立コンテストで入賞など、少し考えただけでもたくさんの挑戦する生徒を思い出すことができます。



という授業では、地域の方にたくさん応援していただきながら、ボランティア活動をしたり、地域の会議に参加する生徒もいました。

佐伯高校生が、自分のやってみたいことに思い切って挑戦できる理由の一つは、周囲にあたたかく応援してもらえる環境があることだと思います。

卒業後、生徒たちは、自分たちの学校が本当にすばらしい学校だったと、あらためて気がつくのではないのでしょうか。

生徒がハツラツとしている、あの雰囲気を知ってもらえれば、佐伯高校の良さをわかっていただけるのではないかと思います。

地域のイベントに佐伯高校生と一緒に参加したり、授業に参加したり、生徒の様子を撮影し、PR動画を作成したりなど、とても思い入れ深い、素晴らしい経験をたくさんさせていただきました。

最後に、「私の好きな佐伯高校」を詰め込んだ動画を作成しました。ご覧いただけると嬉しいです。

たくさんの方にお世話になり、助けていただいたおかげで、3年間、活動することができました。

本当に、ありがとうございます。

そしてぜひ、今後も佐伯高校に注目していただけますよう、よろしくお願いいたします！



動画はこちら!!



今までありがとう

各場所で活動していた、

ございました！

地域支援員3名が卒業します。

吉和地域小さな拠点
推進担当

深瀬 憲司

〜繋がり大切さ〜

この度、令和5年3月31日をもちまして、地域支援員任期が満了となります。
3年間、地域支援員として活動させて頂いた中で、1番強く感じたのが「繋がり」ということが如何に大切かということです。
地域支援員になるまでは、吉和地域内でも、正直知らない事が多かったです。仕事として関わる事で新たな発見があり、お会いしたことの無い方にもたくさん出会う事が出来ました。

地域外の方ともたくさんお会いする機会がありました。他地域で、活躍されている方とお話すると、刺激を与えてくれますし、自分もこんな事がしてみたいという感覚になることが多々あり勉強になりました。
そして、「人が人を呼ぶ」と言う当たり前のことかもしれませんが、人と人の繋がりが何をするにも大切なのだとしみじみと感じました。



〜吉和ココから塾〜

何度かこの地域支援員だよりで「吉和ココから塾」と言うフレーズが出てきたと思います。
吉和ココから塾の取り組みとして、「よしわコマルシェ」「どろんこ遊び」「人材活用セミナー」などを行ってきました。

中でも、よしわコマルシェは吉和の事業者さん達が主体となり吉和のPRや自身のPRを行い、来て頂いたお客さんに喜んで頂けるマルシェとなっています。

このよしわコマルシェは、今後も年4回ペースで吉和地域でのにぎわいを創出するため、行っていくしますのでよろしくお願います。



〜ターニングポイント〜

令和5年は、吉和地域にとって最大級のターニングポイントだと僕はかつてに思っています。その理由の一つとして、「吉和ふれあい交流センター」が供用開始されること

が挙げられます。僕も「吉和の未来を考える会」に参加し、地域の方や行政職員の方と一緒に、新しい吉和のビジョン、地域でどんな事が出来るかなどを話し合いました。この施設が、吉和の窓口となり、吉和の拠点として地域内外の誰もが楽しんでもらえるような施設になると思うので、みなさん乞うご期待です。

これから生まれて育った吉和に、地域の皆さんと一緒に携わっていきこうと思いますので、よろしくお願います。本当に、3年間ありがとうございました。



吉和地域
活性化担当

土橋 君枝

令和4年1月から、約一年という短い期間の中で、コロナ禍ということもあり試行錯誤しながら、いろいろな事業を企画実現をしてきました。



「ドローンを飛ばそう」の一場面

振り返って見ると、地域支援員になった時に、地域の方々と同じ目線を持つことを、目標にしてきましたが、ひとつひとつ真摯に向き合い、意見や考えを聞き、地域の声を行政に伝えるパイプ役になれたのだらうか？もつとやれる事はあったのではなからうか？など反省する点も多かったように思います。これから地域住民の立場から地域のために、出来る事をやっていきたいと思っています。

5月1日から、地域内外の交流拠点となる甘日市市吉和支所・吉和ふれあい交流センター・吉和歴史民俗資料館（吉和複合施設）が供用開始となります。木のぬくもりが感じられる建物で、いつでも地域住民が集え、交流を生む場所となります。

吉和の四季の美しさや自然の雰囲気や魅力を知っていただき、吉和ファンになっても吉和に来ていただければ嬉しいです。



「カラーセミナー」の一場面



「空き家」について考える (玖島地区)

「空き家」と聞いて、みなさんはどんなイメージを持ちますか？

ほとんど廃屋のような家—そんなイメージを持っていらつしやる方も多いのでは？私もその一人でした。しかし、昨年、廿日市市住宅政策課主催の「空き家お助けパートナー養成講座」に参加し、年に一度空気の入れ換えにきたり、物置として使用したりしているのも、実は

空き家とみなされる場合もあるということを知りました。また私自身も、両親が亡くなり住む人がいなくなつた実家をどうにかしないと



いけない、と奔走する姉の姿を見て、今住んでいる自分たちの家のこともよく考えないといけないと思つており、空き家問題は他人事ではないと実感しています。

「空き家お助けパートナー養成講座」には、10名あまりの玖島の皆さんが参加されました。空き家お助けパートナーとは、空き家をお持ちの方に寄り添って、空き家の困りごとの解決を支援することです。解決の決定はあくまでも所有者ですが、その想いを尊重しながら解

決に向かえるように地域のネットワークを作るのが目標です。

講座を受けておしまいでは意味がないので、参加したメンバーで改めて集まり、玖島の空き家について考える活動が始まっています。

空き家に限らず、住まいについて困りの方がいらつしやいましたら、ぜひお声がけください。一人では解決できないことも、何か出口が見えるかもしれせん。(義志 裕子)

令和5年度 マコモタケ試験栽培

マコモタケの試験栽培を始めてから早くも1年がたちました。

令和4年度は課題の多い1年でしたが、今年度は栽培方法の確立に向けて、引き続き栽培を行っています。

「令和4年度の課題」

昨年度は、マコモタケを栽培してみても、あまりにも多い雑草と可食部分が育たなくなる出穂に悩まされました。使用できる除草剤が無く人力での除草が必要で、5月にマコモタケを植えてから9月まで、田んぼに生える草を取り続けました。9月に入ると一部のマコモタケから穂が出始め、マコモタケができない株も散見されました。対策確認のため、先進地で栽培技術を学び、今年度から新たに現地で譲っていただいた株を導入することにしました。

News & Information

これまでマコモタケの栽培は3箇所の田んぼで延べ約2500㎡での栽培でしたが、今年度は新たに栽培を始める人が2名増え、合計約3500㎡になる見込みです。今後はマコモタケ栽培の省力化を進めるとともに、販路の開拓にも力を入れていきます。

「令和5年度の活動について」

今年度はマコモタケの他に、「カキツバタ」や「レンコン」の栽培も検討しています。津田や吉和では景観植物のひまわり



りが育てられ、観光名所の1つとなっています。しかし、昨年度の試験栽培農地は水が多く、ひまわりに不向きな土地でした。そこで、「レンコン」や「カキツバタ」等の水性植物の試験栽培を行い、景観の改善に役立て、遊休農地の新しい活用方法として検討していきます。昨年度はマコモタケを植えたことがきっかけとなり、多くの反響があり、地域の皆様の関心を集めました。今年度はより多くの方にマコモタケを知ってもらい、少しでも地

域農業振興に関心を持っていただけるように活動します。(中山 理公)

移住フェアに参加しました！

1月14日、東京で開催された「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア2023」に参加しました。当日は、東京ビックサイトという大きな会場での開催ということもあり、全国から200を超える自治体に参加し、大いに盛り上がりしました。廿日市市も暮らしや仕事、地域に関する情報について個別に相談できるブースを出展し、関東在住で移住を検討されている方々のご相談にお応えしました。また、ブース内ではVRで空き家バンクに登録されている物件を内覧してもらえる「バーチャル



空き家内覧会」も実施し、実際に空き家の中を歩いているような感覚で見えたかったです。今後も広島県内のみならず、県外で移住を検討されている方々にも地域の魅力を発信していきます！(中井 皓一)



編集後記

この春、任期を終えて3名の地域支援員が卒業。新たな道を歩むことになりました。それぞれ担当は違いましたが、どうすれば地域の皆さんの役に立てるのか、喜んでもらえるのか、いつも一生懸命で、見ていて刺激を受けていました。今号は3人の集大成とも言える活動をご紹介します。地域支援員でなくなっても、佐伯吉和地域を応援する気持ちはきっと変わりません。残ったメンバー共々、これからもよろしくお願ひします。(義志 裕子)